心動いたニュース教えて

第10回しまね小中学生新聞コンクール 新聞つくりタイムズ

最終号

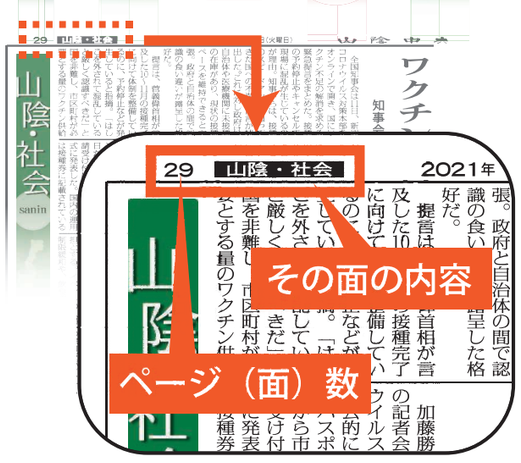
12月3日まで 作品募集！

しまね小中学生新聞コンクールの10周年を記念し、今回初めて高校生を対象に「新聞記事感想文コンクール」を企画しました。山陰中央新報には身近な地域から世界の話題まで幅広いニュースが載っています。気になる記事を選び、考えたことを書いてみませんか。日頃、新聞を手に取る習慣がない人も、この機会に新聞を読んでみよう。

高校生の部 新聞記事感想文コンクール

地元の記事はここを見よう

- 山陰総合 sanin — 山陰両県の行政や政治の話題など
- 出雲・石見・鳥取 izumo iwami tottori — 山陰両県の身近なまちの話題など
- しまね shimane — 島根の行政や政治の話題など
- 山陰・社会 sanin — 山陰両県の事件、事故など
- 山陰経済 Sanin Economy — 山陰両県の経済ニュース



応募方法、これまでの優秀作品、詳しい新聞の作り方やヒントを解説した動画を山陰中央新報社のホームページで見ることができます。

記事を選ぼう

新聞を「読むこつ」

ポイント① 1面は新聞の顔

その日、新聞社が読者に伝えたい「イチ押し」の記事は1面に載っている。中でも紙面右上の「トップ記事」が最重要。1面に目を通せば、その日の大事なニュースが分かる。

ポイント② 「見出し」をチェック

記事の内容が凝縮されており、見出しを見れば記事の概要が分かる。文字が大きいほど重要なニュース。

ポイント③ 「リード」は「要約文」

新聞記事は「リード（第1段落）」と「本文（第2段落以降）」でできている。リードは記事全体をまとめた「要約文」。リードを読めば記事の概要が分かる。本文はリードを補うように具体的な説明が大事な順番に書いてある。

10分で世の中をつかむ

新聞を1面から最終面のテレビ欄までめくり、まずは見出しに目を通す。気になる見出しの記事はリードも読んでみる。10分ほどで、その日、世の中で何が話題なのかが分かる。

気になる記事をストック

気になる記事は切り抜いたり、コピーしたりして時間のある時にじっくり読む。日々新聞に目を通し、趣味など身近な話題から社会問題まで、心が動いた記事をストックしておこう。

新聞を読む三つのポイント

感想文のこつ

①精読する

大事だと思う部分、読んで心が動いた箇所に線を引いたり、印を付けたりしながら丁寧に読む。

②思ったことをメモ

共感、反論、ツッコミ、疑問、発見…。記事を読んで思ったこと、その理由を付箋やノートに書き出す。分からなかったこと、もっと知りたくなったことは本や資料で調べる。

③考えを深める

メモを踏まえ、自分の考え、結論を整理する。家族や友人に記事を読んでもらい、意見を聞いてみるのも考えるヒントに。

④タイトルをつける

①～③の作業で集めた材料を見返し、感想文の「タイトル（見出し）」を10文字程度で考える。見出しは「この文章で自分が最も言いたいこと」で、「文章のゴール」。ゴールを決めてから書くと、話があちこちに飛ぶのを防げる。

⑤構成を考えて書く

例えば序論、本論、結論の構成。

▽序論　記事の紹介、選んだ理由、自分の意見を簡単に説明。

▽本論　記事の話題について詳しく説明。具体的な出来事、気持ち、自分の意見の根拠を書く。

▽結論　記事、体験を通して考えたことや学んだこと、自分の意見をあらためて主張する。

⑥推敲（すいこう）する

読み返し、内容や表現を練り直す。読み手を意識し、「自分の言いたいことが伝わるか」を考える。人に読んでもらったり、声に出して読んでみるのもよい。字句や内容の間違い、主語と述語のねじれがないかを確認する。

応募方法

◇**対象**　島根県内の高校生

◇**応募規定**　今年4～11月の本紙記事を読んだ感想を市販の原稿用紙に600～800字で書き、所定の応募票を付ける。1人1点。学年ごとに最優秀賞、優秀賞、優良賞を各1点、応募者全員に参加賞

◇**応募方法**　個人または学校単位で山陰中央新報社へ郵送か持参

◇**応募締め切り**　12月3日（金）必着

◇**問い合わせ**　山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」事務局、電話0852(32)3414＝平日午前9時半～午後5時半。電子メールshochu@sanin-chuo.co.jp

主催：山陰中央新報社

第10回 しまね小中学生新聞コンクール 作品募集中！

応募締め切り 12月3日（金）新聞社必着

■対象
島根県内の小学生と中学生

■応募規定
●専用の応募用紙を使った個人の作品　●テーマは自由。一人2作品まで応募可
●用紙はタテに使い、内容は枠の中におさめる
●文字は手書き（手書きが難しい人はパソコン使用可）
●人の文章や写真を勝手に自分の作品に使わない。出典（出どころとなった本や新聞の名前、掲載日）を入れる。写真は撮影者などに許可を得る

■審査と賞
●学校の先生や新聞記者による審査会を12月～来年1月に3回実施
●学年ごとに最優秀賞（1）、優秀賞（1）、優良賞（1）、入選（17）、佳作（30）の計50点、「学校賞」（小中学校各5校程度）を贈る
●副賞は最優秀賞（図書カード3万円）、優秀賞（同2万円）、優良賞（同1万円）、入選（同1,000円）、学校賞（同1万円）。応募者全員に参加賞
●上位3賞の入賞者、学校賞は来年1月下旬に山陰中央新報の紙面で発表
●入選、佳作受賞者は来年3月に山陰中央新報に掲載予定の特集紙面で発表
●作品は審査終了後、随時返却します（入選以上は来年3月から開催予定の作品展終了後）

■応募方法

■先生方へ～新聞社への応募の手順
❶作品を学年ごとにまとめる
❷山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」のホームページから各学年用の「エントリーシート」（応募者名簿）をダウンロードし、学校名、応募者名、作品番号を記入
❸各学年の作品の束に、プリントアウトしたエントリーシートを添え、新聞社へ提出（郵送、持ち込みなど）。エントリーシートのデータを新聞社にメールで送る

■問い合わせ・作品の送り先
●住所／〒690－8668 松江市殿町383山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」事務局
●電話／0852(32)3414※平日9:30～17:30　●ファクス／0852(32)3520
●メールアドレス／shochu@sanin-chuo.co.jp

●応募作品の著作権は山陰中央新報社に属し、山陰中央新報本紙やホームページに掲載するほか、優秀作品は県内で開催する作品展で展示します●応募の際にいただいた個人情報はコンクール運営にのみ使用し、第三者への提供はしません

「なぜ？」から広がる私の世界

「なぜ？」
新聞記者の取材は素朴な疑問から始まります。
「そういうことか」「なるほど」「へぇー！」
現場に行ったり、人に話を聞いたり、取材をするうちに疑問は発見に変わります。

何かを見たり、聞いたり、体験する時に、「なんでだろう」「どうしてかな」という疑問を大事にしてみよう。新たな発見があなたの世界を広げてくれるはずです。

応募方法、新聞の作り方などはHPに掲載

●共催／山陰中央新報会 ●後援／島根県、島根県教育委員会、松江市教育委員会、安来市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、浜田市教育委員会、大田市教育委員会、江津市教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、益田市教育委員会、津和野町教育委員会、吉賀町教育委員会、海士町教育委員会、西ノ島町教育委員会、知夫村教育委員会、隠岐の島町教育委員会、島根県小学校長会、島根県中学校長会、島根県特別支援学校長会、島根県私立中学高等学校連盟、島根県教育研究会、島根県特別支援学校教育研究会、島根県PTA連合会、島根県特別支援学校PTA連合会、島根県私立中学高等学校PTA連合会（順不同）●協賛／イオンリテール株式会社

AEON 木を植えています 私たちはイオンです

ご当地WAONは、ご利用金額の0.1%をイオンが寄付し、地域の活性化にお役立ていただけるWAONカードです